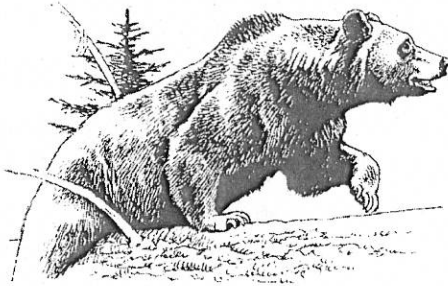


## ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル



〇ヒグマと出会わないために！  
引き寄せないために！  
出会ってしまったら？

(ツキノワグマでも基本は同じです)

財団法人 知床財団  
研究員 山中正実

### 出会わないことが、最善の安全対策！！

いったんヒグマに遭遇してしまえば、その時々さまざまな状況や突発的な不可抗力によって、予想外のことが起こりうる。絶対確実な対処法はないといって良い。

### 人がいることをクマに知らせてやろう！

#### 1) 物音たてろ！声を出せ！

- \* ヒグマの聴覚は、人間よりもはるかにすぐれている。距離的に余裕のあるうちに人の接近に気付けば、クマは人を避けて離れて行く。山歩きの好きな人ならば「クマに出会ったことがない」という人であっても、これまでにきっと何度もクマとニアミスしたことがあるはずだ。クマの方が前もって避けてくれているので、あなたが気付いていないにすぎない。ヒグマは基本的に極めて遠慮がちな大型哺乳類なのだ。
- \* 従って、人間側が積極的に音をたてて知らせる努力をしてやれば、遭遇の可能性は極めて低いものとなる。その手法はやりやすい方法であれば何でも良く、要は自然界にあまりない異質な物音をたてればよい。例えば、鈴をぶら下げることは最も一般的に行われている。
- \* 声を出して歩くのも有効である。複数の人で行動している時は、お互いに世間話でもしながら歩けば、ヒグマにとって十分に人の接近の予告になる。
- \* ヒグマの生息地の山の中では単独行動を避け、複数で歩くことの方が安全である。人数がいれば、足音や声などどうしても物音が出るし、万が一クマと出会っても、複数でまとまって行動しているグループは襲われづらいことが、北米での研究で証明されている。

### それでも、ヒグマに出会ってしまったら！？

ヒグマとの遭遇のさまざまな状況における対応方法について以下に記す。しかし、これはあくまでクマに出会ってしまったからの対応手法である。一旦遭遇してしまえば、その時々状況や突

発的な不可抗力によって、予想外のことがおこりうる。以下は想定されるさまざまな状況下において、事故を回避できる可能性が高いと推奨できる手法を述べたものである。このマニュアルどおりに行動すれば完全に安全が保証されるという性質のものではない。

最優先すべきは、クマに遭遇することを避けること、クマを誘引してしまわないことだ、ということをごここで改めて強調したい。知床国立公園は世界的にも最も高密度にクマが生息する地域の一つであるが、そのような環境にあつてさえ、クマを回避するさまざまな対応をとれば、ほとんど完全に出会わずに行動することが実際に可能である。出会わないための注意を怠らないことが何よりも重要である。それを忘れてはならない。遭遇してもこのマニュアルに示された行動をすれば大丈夫と考えて、不注意な行動をとることがあってはならない。

## 〔状況その1〕距離が離れていた場合

1) 100～数百m離れているが、気付いており、こちらに注目している。あるいは気付いていても無視している場合。

\* 静かにその場を立ち去る。走るな！常にクマの動きを監視しながら。新たな動きがあればすぐに次の対応に移れるように！

(注：「ベア・アタックス」に記述されている「稀な例」のような、数百メートルも距離が離れているにもかかわらず突進してきた例は、経験したこともないし聞いたこともない。日米のヒグマの攻撃性の違いか??)

2) 100～数百m離れているが、気付いており、こちらにゆっくりと近づいてくる場合

\* あなたを人と認識せずに接近してきている可能性がある。石や倒木の上など目立つところに上がって、大きく腕をふりながら、穏やかに声をかけ、人がいることを教えてやる。ほとんどの場合、気付くとあわてて逃げて行く、あるいはゆっくりとコースを変えて立ち去っていく。

\* 知床における多数の例の中では、このような時に更に近づいてきたことは皆無。

従って、以下に述べることは稀な例。

\* 上記の行動をとっても接近をやめない時。興味本位（特に若い個体）や、極めて稀ながら、もしかしたら捕食行動で接近してきている可能性も考えるべき。車内や屋内に待避。あるいは、高く登れる木やクマが登りづらそう自分で登はん可能な崖などないか、周囲を探しながらゆっくり待避。（注：しかし、北海道のヒグマは少なくとも大型のみ以外は木登りが得意である。どうしようもない時には相手より高い位置に立つことの利点はあるが・・・）

\* ここでも走ってはならない。単なる興味本位で近づいてきている場合、興奮させて激しい追跡行動などを誘発しては困る（注：犬と同じく、走り逃げるものを本能的に追う場合があるので・・・）

\* このような状況の時、持ち物を投げ捨ててクマがそれに興味を持っていじっている間に距離を稼ぐ、あるいは逃げるということを推奨している例もある。確かに利点はあるが、これには以下の問題もあることを認識しておくべき。

**その1**：特に食料が入ったザックなどを捨てた場合、これを手に入れて食物の味をしめたクマは、人間を脅しつけると餌が入手できることを学習し、危険な行動をエスカレートさせる可能性がある。その時自分は助かっても、後からその場所に来る人を危険に陥れる可能性がある。

**その2**：後で防御姿勢（後述）をとる必要性が発生した場合に、自分の身を守る貴重なプロテクターとなるザックを失ってしまうこと。

従って、少なくとも食物が入ったものは決して投げ捨ててはならないし、ザックは背負ったままの方がよい。その他の物であれば、投げて時間をかせぐ試みとしてやってみる価値はある。

\*そして、さらに距離が50m前後以下になり、明らかに人を意識しながら接近を続ける場合。待避できる場所がなく、逃げ切れそうになれば、強気に対応すべき。岩の上や倒木の上などに立ち、自分をできるだけ大きく見せて、強い調子の声や大きな物音をたてることができる物で威嚇する。複数の人がいれば、必ずまとまって行動する。決してバラバラになってはならない。棒でも何でも武器になるものがあれば手に取る。クマスプレーがあれば発射準備。数メートル以下になれば、持ち合わせのもので抵抗することを決断すべき。4m以内になって更に近づいて来るようであれば、クマスプレーを持っていたら、全量を一気に鼻と目に当たるように噴射。

注：このような事態になる前に、風向を考慮して相手から風下にならないように、ゆっくりと位置関係を変えておかないと、スプレーが効きづらく、ましてや自分にかかる可能性がある

\*繰り返すが、上記のような例はきわめて稀である。しかし、このようなこともあり得るということ認識しておかなければならない。

## 【状況その2】突発的な遭遇。距離が20m以上 50m以下

1) のっそりと立ち上がる。あるいはひょっこり出てきた場合。

\*後ろ足で立ち上がって（あるいは四つ足のまま）鼻をヒクヒクさせ、周囲を見回していたら、何かが近くにいるのは分かるが、それが何かが判断できておらず、嗅覚や視覚で確認しようとしているサインだ。

\*ゆっくり両腕をあげて振り、穏やかに話しかける。すぐそばに障害物（立木など）があれば、クマとの間にそれを置く位置関係に静かに移動（注：万一の突進に備えて）。クマスプレーを持っていたら発射準備をしながら移動する。

\*私の経験では、上記の対応でほとんどすべての場合、クマは気付くと走って逃げるか、あるいは、ゆっくり立ち去った。

2) 上記の対応を行って、気付いてもこちらを無視している場合。

\*ゆっくり両腕をあげて振り、穏やかに話しかけながら、かつ、クマから目を離さずに（ただし睨みつけないこと）クマ側の行動を監視しつつ、ゆっくりと後退。その場から立ち去る。

### 3) 上記の対応を行ってもクマが立ち去らず、興奮気味になってきたら……

- \* さらに、ゆっくり両腕を上げて振り、穏やかに話しかける。すぐそばに障害物（立木など）があれば、クマとの間にそれを置く位置関係に静かに移動（注：万一の突進に備えて）。石の上や倒木の上などに立ち、自分をできるだけ大きく見せる。
- \* 立ち去ってくれない理由がないか？ 付近を冷静に観察。子グマがいないか（上方にも注意、木に子グマが登っていないか）？ シカの死体などを防衛しようとしていないか？
- \* この場合、多くは低く唸ったり、カプカプと顎を打ち鳴らしたり、興奮して激しく地面を叩いたりすることもある。このような行動は、人との出会いにクマが強いストレスを感じていることを意味する。葛藤の中で、逃げ出すべきか？ あるいは、身を守るために攻撃に打って出るべきか？と迷っている。ここで大声を出したりして強く威嚇し、興奮させてはならない。興味本位や捕食行動で近づいてくる稀な例に対する対応とは逆であるので十分に注意のこと。
- \* ゆっくり両腕をあげて振り、穏やかに話しかけながら、かつ、クマ側の行動を監視しつつ、ゆっくりと後退。その場から立ち去ること。子がいたり、シカなどの死体が見えたり、あるいは見えなくとも腐敗臭がして死体がありそうな場合は、すみやかに、しかし、ゆっくりと（難しい注文だが……）、つまりは急な動きで相手を更に興奮させないように後退すること。いつまでもそこに動かずにいると、敵対行動と受け取られる可能性大。

### 4) まずい！ 突進がはじまった！

あるいは、のっそりと立ち上がる、あるいはひょっこり出てきたとたんに、突進行動になった場合。

- \* まだ落ちついて！！
- \* 多くの場合、威嚇突進行動（ブラフチャージ）である。だーっと突進して立ち止まり、激しく地面を叩いたり、そしてすぐに後退することが多い。また、これを数回繰り返すこともある。穏やかに声をかけつつ、相手の動きを見ながらゆっくり後退する。
- \* さらに、ゆっくり両腕を上げて振り、声をかけつつける。相手が何者か分からないまま、とりあえず威嚇行動にはしっている可能性がある。すぐそばに障害物（立木など）があれば、クマとの間にそれをおく位置関係に静かに移動。石の上や倒木の上などに立ち、自分を出来るだけ大きく見せる。クマスプレーがあれば発射準備。
- \* 走るな！ 騒ぐな！ 残念ながら、ブラフチャージの突進と、本物の攻撃へ至る突進は、突進開始時点では識別不能。しかし、多くはブラフチャージなので、ここで大騒ぎして走り出したりすれば、威嚇が本物の攻撃行動に転化する可能性がある。

### 5) 更に残念ながら、本物の攻撃であった場合

- \* 突進が止まらず、もはや3-4m（クマスプレー射程距離内）に迫ったら、クマスプレーがあれば、全量を鼻と目にあたるように一気に噴射。
- \* スプレーがない場合、あるいはスプレーが効かず攻撃を受けてしまったら、その場に倒れ込ん

で防御姿勢をとる。うつ伏せになって首を胸の方に曲げて腹部を守る。両手は首の後ろに強く組んで急所の首を守る。リュックサックを背負っていたら、背中を守るプロテクターとなる。攻撃が収まるまで動かない（注：これはかなり難しいことではあるが・・・）。一旦、転がされてしまっても、すぐにうつ伏せの姿勢にもどること。

\* 突発遭遇時の攻撃は、クマは自分や仔グマを守ろうとする「防衛的な攻撃」である。このような場合、短時間で立ち去るはず。ここで積極的に抵抗すると、クマは興奮して更に激しい攻撃を続け、重大な傷を負う可能性のほうが高いことがわかっている（ベア・アタックス：ヘレロ教授の分析結果）。

間違うな！「防御姿勢」と死んだふりとは違う！！

直接攻撃を受けていない時、防御姿勢を取ってはならない。かえって興味を持ち近寄ってくる場合がある。

1995年8月、アラスカのデナリ国立公園を歩いていたあるバックパッカーが、数十メートル先にヒグマ（グリズリー）を発見した。危ないと思った彼は、地面に身を投げて死んだふりをした。クマの方はかえってびっくりして、何かと興味を持って近寄ってきて、彼を引きずり回し、背中中のザックを奪い取っていった。幸い軽傷ですんだが、至近距離まで突進を受けたり、直接攻撃を受けてもいないのに、このようなことをすると逆に危険である。

### 【状況その3】突発的な遭遇。距離が20m以下。

#### 1) クマもびっくりして立ち上がるか、四つ足のまま驚愕の表情

\* ゆっくり両腕をあげて振り、穏やかに話しかける。すぐそばに障害物（立木など）があれば、可能ならクマとの間にそれを置く位置関係に静かに移動（注：万一の突進に備えて）。クマスプレーがあれば準備しながら・・・と言いたいが、多くの場合、そんな余裕はない。ほとんどの場合、啞然として立ちすくむと、とたんに、クマも全速力で逃げていくのが普通。

\* とにかく、突発的に走って逃げるとか、大声でわめくような行動は、ただでさえびっくりしているクマを更に怯えさせ、ストレスのあまり防衛的な攻撃に移らせる可能性がある。啞然として立ちすくんでいるのが、一番良いかも知れない。

#### 2) 出会ったとたんに、唸り声をあげたり地面を叩いたりなどの威嚇行動あるいは突進行動に移った場合

\* 【状況その2】の4) 以下の対応へ

### 【状況その4】テントサイト（主に夜）にクマが接近。

#### 1) テントサイトに接近、あるいは、天場周辺に入って来たのに気付いたら

\* 近くに車や家屋などがあれば、すみやかに待避。

\* 鍋釜などを打ち鳴らし、大声で威嚇して追い払う。強気の対応を！

\* クマスプレーがあればすぐに発射準備。

\* 何でも良いから武器になりそうなものを探して用意する。

\* 逃げ場がなければ、積極的に抵抗。

\* 複数の人がいれば、必ずまとまって行動、あるいは、抵抗。バラバラに逃げるべからず。

## 2) 気付いたときには、既にテントにのしかかり、噛み破ろうとしていたとき

\* 鍋釜などを打ち鳴らし、大声で威嚇して追い払う。強気の対応を！

\* クマスプレーがあればすぐに発射準備。

\* 武器になりそうなものを探して用意し、積極的に抵抗。

\* 複数の人がいれば、必ずまとまって行動、あるいは、抵抗。

このようなとき、クマスプレーの有無は生死を分けるかも知れない。テント泊の際には必ず持参し、寝るときにはすぐに手に取れる枕元に置きたいものである。

## クマスプレー COUNTER ASSAULT

北米でクマを追い払うために開発された。トウガラシの辛み成分である「カプサイシン」を濃縮した液体が噴出され、クマを追い払うことができる。射程は4～5mなので、離れたところにいるクマに用いても意味はない。本当に襲われそうな時だけ、最終手段として用いる。至近距離で発射し、クマの目や鼻に確実に吹きかけなければならない。

北米でのヘテロ教授の調査結果によると、クマスプレーはクマの攻撃的な行動を90%以上の確立で停止させることができるとされている。我々も知床においてすでに何度も使用しており、効果的にヒグマを追い払うことができている。このスプレーはヒグマから直接攻撃を受けた際に高い確率でヒグマを追い払い、事故を避けることができる携帯用の道具として、現在考えられる限り最も優れたものである。

しかし、あくまで100%ではない。クマスプレーを使わざるを得ないような状況を招かないように注意することが最も重要である。クマスプレーを持っているために安心して注意を怠るならば、かえって危険である。

テントの周辺やゴミ捨て場などで、クマを寄せないためにあらかじめ付近に吹きかけておくのは逆効果なので要注意。刺激臭に興味を持って、かえって近づいてくる。

近くの登山用品店やアウトドアショップに在庫がない場合は、輸入元のアウトバックに問い合わせるとよい。

\* スプレーを航空機内へ持ち込む（手荷物としても）ことはできないので注意！



(有) アウトバック Tel : 019-696-4647 Fax: 019-696-4678

E-mail : [outback@cup.com](mailto:outback@cup.com) URL : <http://outback.cup.com/>